

水俣の奇病

中毒性のものか

ビールス

「発見できず」

対策委で中間発表

水俣の奇病対策委員会は六日同市保健所に伊藤保健所長、大橋、三島正副市立病院長、細川新日寮付属病院長、浮池水俣市医師会副会長、朝隈、市川両内科医、田中市衛生課長の八氏が出席して開かれた。まず三日熊本医学部で開かれた合同研究会に出席した大橋、細川、三島、伊藤の四氏から当日の中間意見について報告があり、今後の研究主題を協議したのち来る二十五日熊本県大病院長は

か医学部各部長を招いて尚和会館ホールで第二回の合同中間発表会を開くことをきめ、午後四時過ぎ散会した。委員会終了後、伊藤保健所長から県大と地元対策委員会の今日までの研究結果として奇病の原因が一応中毒性のものではないかと見られるとのつぎのような発表が行われた。

病理解剖の結果中枢神経をおかされていることは判明したがその原因は約半月間の実験によつ

てもビールスが証明されないところから中毒性のものではないだろうかということが判つた。しかしその中毒もなにか原因かはまだ不明で目下研究を進めている。しかし水俣地区の委員会では患者が漁業関係者のみに限られているところから漁業家としての生活環境に関係があるというところに意見が一致した。